

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	0172300154		
法人名	有限会社 老古美興産		
事業所名	グループホーム「そよかぜ」岩内		
所在地	岩内郡岩内町字栄2番地10		
自己評価作成日	令和2年 9月26日	評価結果市町村受理日	令和 3年 3月 25日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

当施設は岩内町に1つしかないグループホームです。建物は2階建てで居住スペースは2階です。中央階段には昇降機があり、歩行困難な利用者様にも病院受診等の外出を安心して行える様配慮しています。2階ホールは全面ガラス張りとなっており、夏の花火や街路樹に止まる渡り鳥など四季を通して景色を楽しむ事が出来ます。1ユニットで利用者さん同士は顔馴染みの中皆さんゆったりと過ごされています。ご家族とも家族会や面会時等に交流を深め利用者様との関係を大切にしています。また、利用者様にはその人らしいケアをお掛け個々の好みや生活歴に合わせた支援をしています。家族交流会も年に2回開催しており、手作りの食事を一緒に食べて頂きながら利用者様、職員と楽しい時間を共有しています。また、ご家族同士が気楽に会話できるよう挨拶や紹介を兼ね職員はその空間づくりをお手伝いできるよう努めています。ご家族へ毎回発行している「そよかぜ便り」では写真を掲載しお誕生日や外出レク、日常の様子、体調の変化などを入れ遠方のご家族へも把握して頂けるようにしています。食事は季節を考慮し地場の物を取り入れ、見た目や味で四季を感じられるよう心掛けています。体調などその時々利用者様に合わせ食事形態にも工夫し食べ易さ、温度等に配慮しています。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/01/index.php?action_kouhyou_detail_022_kani=true&JigyosyoCd=0172300154-00&ServiceCd=320&Type=search
-------------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人 ニッポン・アクティブライフ・クラブ		
所在地	札幌市北区麻生町3丁目5の5 芝生のアパートSK103		
訪問調査日	令和3年1月21日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、日本海を望む岩内町の中心部の銀座通り商店街に位置している。近くには、文化センターや美術館、道の駅等があり恵まれた場所にある。1ユニットのホームは木造2階建ての2階にあり、広い窓から明るい日差しが入り、商店街の並木や日本海を眺められ季節の移り変わりを感じることができる。利用者家族には、毎月発行している「そよかぜ便り」で日頃の利用者の様子などを写真で掲載し、遠方の家族の要望があれば、「ライン」を通じて対話ができるよう支援している。岩内町主催「カカシ祭り」に参加し利用者の作品が受賞していたが、コロナ禍で祭りが自粛され、1階のロビーに飾られている。また、町内の敬老会等に参加したり、幼稚園児が来訪し歌や遊戯を披露するなどの交流が盛んだったが、この交流もコロナ禍の為に自粛している。また、地域住民による冬季間の除排雪を行ってもらう等、地域との絆が強い事業所である。感染症予防の為に温度や湿度の管理や換気の入替え、アルコール消毒等の徹底で利用者の安全と安心な入居生活ができるよう努めている。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容		
I.理念に基づく運営								
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域の喫茶店に行ったり散歩に行った時に会話をしている。新しい職員へは今後、理念を会議等で伝えていく。	事業所理念は玄関と事務所に掲示している。重要事項にも記載されているため、入居時に利用者家族にも説明し理解を得ている。職員は、研修会や会議等で理念を理解し、利用者のサービスに反映させている。				
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	既に顔見知りとなっており、顔を合わせるたび会話している。お花を届けてくれたりもする。	町内会に入会し、散歩時に地域住民との挨拶や地域の夏祭り、敬老会等で交流したり、幼稚園児の相互交流があるが、このコロナ禍の為に自粛している。冬季間は地域住民による事業所周辺の除排雪支援を受けてる。				
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	訓練の時等、対応の仕方を支援者へ伝えている。避難後戻ろうとする人にも理解があり、名前を呼び付き添ってくれる。					
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	夜間の排尿回数が多く睡眠不足の利用者にポータブルトイレを置いては?と意見を頂き実行した。	会議は年6回開催し、行政職員、地域包括支援センター職員、利用者家族、地域住民等の参加で実施している。今年度はコロナ禍の為に全職員による会議で運営状況の報告等を文書化し各参加者に配布している。それを基に意見などを確認し運営に反映させている。				
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とお頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保健所の会議に参加できなかったときは町担当者から内容を聞きアドバイスも頂いた。コロナウイルス感染対応の為に面会や会議の開催等相談している。	町の担当や地域包括支援センターとは、書類申請や継続手続きを相談したり、助言を得ている。また、運営推進会議でも助言や情報を得ている。町より感染症予防の為にマスク・アルコール等の提供や情報を得ながら予防に努めている。				
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	防犯の為に夜間の施錠はしている。口に指を常に入れて利用するには指を組んでもらったり、口元にハンカチを置いて頂いている。	身体拘束適正委員会を年4回開催し、運営推進会議で身体拘束廃止等対策検討委員会を行ったり、内部研修などで拘束の事例などを含めながら身体拘束の弊害を学び、身体拘束をしないケアに努めている。利用者が外に出た場合には、職員が同行して見守りを実践している。				
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	叩く、つねる、かじる、蹴る、利用者にはスタッフ2名で対応している。					

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度を入所後利用された方がいる。弁護士さんと情報共有している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入院中、今後の話し合いを病院、家族、施設で行い看取りを病院で行うことに家族も納得した。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族よりボランティア(手品)の誘いがあり、活用している。	利用者からは日常の会話や生活から、家族からは電話や手紙で、意見や要望を把握するよう努めている。特に、家族が面会に来た際に時間を取ってもらい、利用者の情報、要望等を聞き取りしたが、コロナ禍で面談は自粛している。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	利用者が大幅に入れ替わり、メニューの変更、見直しをした。	管理者は、職員と日常的に要望や意見を聞く機会を設け、毎月1回フロア会議を行い、職員は自由に意見や提案を出し合い運営に反映させている。管理者は個人面談を行い、その結果を母体法人に報告している。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	毎回代表者は個々の状況を確認し実績を考慮してくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	初任者研修の受講料を負担してくれる。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	運営推進会議に参加したり交流のあるグループホームと電話にて情報交換している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	病院から真っ直ぐ入所の方でしたがコロナの為に面会禁止の中少しの時間でもと、面会させて頂きコミュニケーションをとらせてもらった。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	コロナが収まってからでも良いので預けた犬に会わせてほしいとの要望をケアプランに載せた。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	たまに自宅に戻り花の様子を見たり花を摘みホーム内の自室に飾ったりと今までの生活に近づく様支援した。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	施設の買い物やごみ捨て等手伝ってもらい一緒にやっている。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本を他者が持って行き返さないと思い込んでいた方の娘さんと話し合い娘さんが借りていたと娘さんから話してもらった。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	自宅を心配する方にはたまに一緒に自宅の様子を見に出掛けている。	コロナ禍により家族や知人、友人の来訪を自粛している。毎月「そよかぜ便り」で、日頃の様子を手紙を添えて家族に伝えているが、要望によっては「ライン」で利用者と話ができるよう支援している。馴染みの場所や桜の花見、紅葉の季節には、車窓を通してチョット見物で利用者の心が和むような取り組みをしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	互いの部屋を訪室したり、共有スペースでの会話を見守っている。自席へ他者を招き話し掛けてくれ同席者から不満を言われてもフォローしてくれる。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	亡くなった後もご家族が時々顔を見せに来てくれた。			
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント						
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日に何度も1Fへ降りる方には一緒に玄関先の花を見たり止めずにそっと見守りをしている。	日頃の関わりの他、アセスメント・家族の面会時、行事等の機会を利用して利用者の意向の把握に努め、記録している。把握した意向は職員間で記録や会議で検討し、今後にかすように取り組んでいる。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	病院入院中の方は病院での生活状況を聞いている。			
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	台所作業がとても好きな方がいるが、頭痛持ちの為、作業前の様子を把握したり声掛けし体調確認をしている。			
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ペアで各担当者を決め毎月プランの評価をし、全体会議後次のプランに活かしている。	利用者家族の意見や要望を基に、モニタリングを行い、計画は4ヶ月毎に見直しして、家族に説明後に同意印を得ている。また、利用者の状況の変化に応じて、随時介護計画の見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入浴時の皮膚の状態等、記録し頭皮にフケの塊が多い方にはシャンプーを変えたり洗い方を工夫している。プランへも反映させた。			
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	知的障がい者施設に入所中のご家族の面会や食事を提供した。			
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近所を散歩し近隣の方と会話したり、花や野菜を頂いたりした。			
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ニセコ脳神経外科がかかりつけ医だった方が体調を崩した時、先にかかりつけ医に相談し脳からではない様なので近くの内科受診を勧められ岩内協会病院受診となった。	利用者と家族が希望するかかりつけ医の受診継続を支援している。受診時についてはできる限り職員が同行し、医師との連携を図り、適切に医療が受けられるよう支援している。協力病院による月2回の往診があり、看護師が利用者の健康管理を行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価			外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容			
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	皮膚や傷の状態を伝え処置の仕方を支持してもらっている。また、受診へ繋げている。					
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	102歳の方が入院した時は施設では無理と医師より話があったが、家族の強い要望もあり一度施設に戻ったが、再度体調を崩し入院となった。					
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所で行えることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	往診医が変わった為、看取りが行えなくなり看取り契約をしていた家族にも伝え体調変化時は救急車を呼び病院へ運んだ。	入所時に終末期や重度化について、利用者や家族に説明し同意を得ている。重度化した際は、随時家族や医師と話し合い、その都度状態に合わせて介護計画書を見直し同意を得ている。	看取りの実施に当たっては、協力医による24時間体制と訪問看護師が必要とされる。現在、協力医による看取り対応を進めて行く上で、行政や社会福祉関連の協力を得る必要があり、24時間体制で看取りに取り組むことができるよう期待する。			
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命講習は2年に1度定期的に全員で受けている。新しく入った職員もこれから学ぶ。					
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	地域の方と協力して年2回の消防訓練は日中、夜間を想定して必ず行っている。原子力防災訓練にも参加している。災害対策のマニュアルは完成した。	昼夜を想定した消防訓練を年2回実施しているが、コロナ禍により消防職員及び地域住民の参加自粛している。「非常災害対策計画の策定手引」を参考に災害対策計画を作成し、職員に周知させている。海が近いので、津波対策に地域の方々や行政と連携して、その対策に取り組んでいる。				
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援								
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	皮膚の状態確認や個々の様子は他利用者が居ない部屋で行う様努めている。言葉の出ない利用者へも職員は把握に努め言葉の代行をし、談笑の輪に入って頂いている。	利用者への声かけは姓を「さん」付けで呼ぶなど、職員は利用者一人ひとりの人格の尊厳を重視して対応をしている。個人情報の取り扱い、プライバシーの確保に努めている。				
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	ご主人の誕生日に自宅へ帰りたい。や本人の誕生日に皆に寿司をご馳走したい等、希望を聞いている。					
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入浴したくない時は、清拭したりレク参加したくない方は無理強いせず自室でTVを見たり休んだりしている。					
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	日に何度も着替える方がいるが、見守りし定期的に衣類の洗濯を介助している。					

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	外食が出来ない状況だったので弁当を取ったり、ウニを職員の知人に頼み、うに丼を作り皆で楽しく食事をした。	利用者と日常の会話の中から好みに応じた献立や季節メニューを取り入れ、1週間分の食材をスーパーに発注している。誕生日は利用者の希望を取り入れながら祝っている。通年の外食はコロナ禍で自粛しており、出前等で食事の支援をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	暑い日が続いたり、体温調節が上手く出ない方には特に水分に注意し、いつも以上に多く飲んでもらった。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	入所時口腔ケアに抵抗のあった方に、時間を置き何度か声掛けをしているうちに現在は一度の声掛けで応じてくれるようになった。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	ご本人の排泄したい気持ちを大切にしながらも、時間を見て声掛けしたり誘導している。抵抗のある方は失禁時目立たない介助に努めている。	排泄チェック表を活用し、定期的な時間で声掛けや誘導を行い、自立排泄を支援している。日中は布パンツで夜間はリハビリパンツを使用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便の時間帯や行動を個々に把握し誘導や排泄後の確認をしている。おやつにさつま芋やバナナ等用意している。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴日は週2回だが、毎日の足浴介助や入浴日以外の洗髪介助、清拭を個々に合わせて行っている。	入浴は週2回を目安に、利用者の状態に合わせて清潔保持に配慮している。利用者の希望により清拭や足湯、シャワー浴等の支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	疲れやすい方、血圧の低い方等、午前午後と定期的にベットで休んでもらっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	居宅療養管理指導を導入し、薬剤師から直接教えて頂いている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	外出がままならない状況だったが、天気を見て散歩や受診後のドライブ等に出掛けている。施設内で2回縁日も開催した。		

グループホーム「そよかぜ」岩内

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	この状況の中だが、散歩や自宅へは行っている。	港や山がある恵まれた環境で外出の支援をしていたが、コロナ禍の影響で施設内で過ごす時間が多くなっている。職員は利用者の要望を踏まえ、感染症予防をしながらドライブや外でのお弁当タイム等、気分転換が図れるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に出掛け本人に支払いをしてもらおうとしたが、逆に頼まれた。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	毎日夫や娘に掛ける人もいれば、声掛けても全く掛けない人もいる。わからない方には介助しTV電話等で会話してもらっている。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	窓を開けると寒がる人がいるので閉めて、暑がる3名にだけ扇風機を使って頂いた。	居間や食堂は一体的な作りで、大きな窓から明るい日差しが入り、季節感ある飾り付けや利用者の手作り品、行事の写真が飾られている。利用者はいつもの場所で座りながら、仲の良い利用者同士や職員とのおしゃべりしながら寛げる家庭的な雰囲気になっている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチに座り、気があった人同士で楽しく過ごしたり、ソファで1人うたた寝している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	初めから使い慣れた物を持参している。模様替えの好きな方は自由に移動している。	クローゼット、温水パネル、物干しポール(乾燥防止)が備え付けられた居室には、馴染みの家具や仏壇等を持ち込み、家族の写真や手作り品などが飾られ、利用者が居心地よく過ごせる居室となっている。寝具として布団を敷いている利用者もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ベットの高さが会わず立ち上がりが困難な方へベットの高さを調節した。		